

The Power of Trust / 信頼のパワー

Steve Martin, NEI スティーブ・マーティン、NEI

S.G. Friedman, USU S. G. フリードマン、USU

Presented at the IAATE Conference, 2013

2013年 IAATEカンファレンスでの講演

トレーニング中の動物のモチベーションに影響を与える先行事象の元というのは数多くあります。社会的影響、ディストラクション、パーソナル・スペースなど。行動分析の用語で先行する影響のあるものを操作する事は、動機付け操作として知られています。動機付け操作は、強化子の効果と過去にその強化子を作り出した反応率を変える環境内の先行する出来事や変化の事です(USF Behavior Analysis Glossary, 1999) この記事では、そうした動機付け操作のひとつである、動物とトレーナーの関係、信頼という概念で表現されるものに焦点をあてます。信頼ができあがれば動物達は、私達の強化子を彼らの行動でコントロールする、つまり学習することに、より強く動機付けされると言われています。

信頼：それはどんな風に見えますか？

信頼を作るために役立つ方法は、関わり合いが良い結果に終わることの確実性のレベルと、それにより関わりが増えるというものです。信頼している動物は彼らの行動を使い、逃げるのではなく、自信をもって人々との関わり合いの機会にアプローチします。トレーナーの関わり合いへの誘いを受け入れるだけでなく、信頼している動物はトレーナーのため関わり合いの機会を作り出すこともするのです。

例えば最初にインコに近づく時、インコはあなたから遠ざかるかもしれません。しかしあなたがインコのお気に入りのフード一粒を静かにカップに落とし立ち去ると、次にはパーチにいることを選ぶ可能性が高くなります。繰り返すことで、多くの鳥が、あなたが近づいてくることをボディサイン(例えば、アイコンタクト、全身の羽をふるわせる、尾羽を振る、足をばたつかせる)で求めるようになります。

もちろん、私達人間の関係にも同じ事が言えるのです。ある人と信頼関係があると、関わり合うことをより多く選びます。私達は近づかれても全身の羽をふるわせたりしませんが、その尾羽を振る事には警戒します！

(訳者注：著者に確認したところ鳥の行動を使った言葉遊びとのこと。鳥が羽全体をふるわせたり尾羽を振るように、人間も近くまで来て関わり合いを持つようになるまでは、相手からの歓迎アプローチに対して警戒したくなるという意味とのことです。)

信頼預金口座

関係にまつわるその他多くの事と同じように、信頼はシンプルに二分できるようなものではありません。「ある、なし」よりずっと複雑なものです。億万長者になる事と破産する事の間にはたくさんの信頼レベルがあるので、銀行口座という喩えは非常に便利です。私達の関係すべてにおける目標は、私達の動物にそしてお互いに避けられずに起きてしまう引き出しに耐えられるほどの十分な信頼預金を作る事です。

関係銀行の国際通貨はポジティブな関わりです。私達は、一度にひとつのポジティブな関わりを信頼口座

に貯蓄します。ポジティブな関わりとは、動物が価値のある報酬を獲得する事だけでなく、選択する機会を得る事でもあります。信頼預金口座から引き出しとなるのは、力、脅威、罰などのネガティブな関わりです。もし引き出しがあまりに大きくポジティブな残高を超えると、関係を赤字にする危険があります。しかしたとえ小さなまたは無意識の引き出しであっても時の経つうちに積み重なり、破産という関係になることもあるのです。

私達それぞれが、それぞれの動物との生活の中で信頼預金口座を持っています。この信頼預金口座には連邦預金保険基金(FDICのような)は存在しないのです。信頼預金口座を守る最適な方法は、引き出しよりもたくさんのたくさんの貯蓄を確実にしておく事です。

破産の歴史

トレーナーがインコに自転車に乗る事をインコの尻尾をスティックで叩くことによって教えていたのは、そう昔のことではありません。この嫌悪刺激を避けるために、鳥は行動をしたのです。たくさんのくり返しの後に、スティックは効果的な脅威(条件付けされた嫌悪刺激)となり、スティックを見せるだけで、鳥は自転車に乗るようになりました。明らかな事ですが、動物たちは負の強化でも新しい行動を覚える事ができます(言い換えると、嫌悪刺激を逃れるためにさらになにかするという事)しかし、負の強化は信頼預金口座からの不必要な引き出しという結果になり、動物の行動レパートリーを減らす事になるかもしれないのです。フリーフライト行動を負の強化でトレーニングされた鳥をプログラムで見る事はないでしょう。逃避はフライトの動機付けになるかもしれませんが、戻ってくることへの動機付けにはならないのです。

動物は罰からも学びますが、信頼預金口座から多額の引き出しをするだけでなく、しばしば予期していない行動が無意識のうちに弱化されてしまうのです。フクロウが木に止まっていた、ステージ上のトレーナーのところへ戻ってくるのが遅かったため、イライラしたトレーナーはフクロウが戻った時に食べ物を引き下げてしまいました。木の中でたくさんの時間を過ごした鳥への弱化を試みようとしたのであっても、手袋へ戻るという行動が減少します。強化を信頼できない鳥は手袋に戻るという事が減り、しだいにまったく戻らなくなるでしょう。

残念なことに、効果的な弱化というのは、それを用いるトレーナーを強化するので、かれらはさらに弱化をします。このフィードバックのループは、私達が生きる世界で目にする多くの破産した関係の、主な、少なくとも部分的な要因となるでしょう。

強化のある未来

正の強化戦略は私達のショーの鳥達と信頼預金口座を作り上げる鍵になります。正の強化による信頼構築の効果を最大限にするために、強化子には一貫性、即時性、魅力十分である事を確実にします。正の強化のトレーニングがまったく新しいバードショーの可能性の世界を開くのです。自転車の代わりにフリーフライトの行動、そしてさまざまな種による教育目的のショーが急激に広がってきています。強制は協力に取って代わり、鳥達はもっと頻繁に種に適切な行動をするようになり、これが教育と感銘を受けたオーディエンスと信頼預金口座を作り上げる助けになるのです。

人と鳥の強い関係を作り、さらに私達のプログラムで鳥に関わることを促す新しい環境や物への信頼も構築することになります。静かなトレーニング場所で学んだ行動を客席に般化させる事には、小さなステップで進むことと正の強化のくり返しが含まれ、信頼を預金口座に貯めることになります。鳥に新しい止まり木に乗るといった基礎的な行動を教える事にも信頼構築の小さなステップは含まれるのです。多くのトレーナーが、この小さなステップを飛ばしてしまいます。その鳥が過去に似たような止まり木に止まったことがあるから、似たような新しい止まり木に止まることを関連付けてくれるだろうと予測するのです。これがしばしば鳥を止まり木に移動させるが早すぎたり、遠くから新しい止まり木に飛んでこさせようとしたりという結果になり、信頼預金口座からの引き出しに簡単につながってしまうのです。

問題となる状況がおきた時、問題となっている行動を適切な他の行動に置き換え、新しいスキルを教える事に集中します。例えば、噛みつくインコには、トレーナーの手に対して背をまっすぐ上にのばして、穏やかに乗る事を教えられます。手に乗る事はシェイピングで教えられます。小さなステップで最終行動により近いものを強化します。例えば、手を見る、足を上げる、手の近くで足を上げるなど。鳥が手に乗ったら、強化子を渡し、すぐに別のトリーツを取るために止まり木に戻させます。もっとも効果的な強化は、一定であり、素早く、強いものだという事を覚えていてください。躊躇なくあなたの手に乗ったり降りたりするようになったら、強化しながら手の上にいる時間をのばします。このアプローチにより、鳥はより長い時間あなたの手の上に落ち着いていることが、自身の結果、言い換えるとトリーツへのアクセスをコントロールする方法だということを学びます。このプランは信頼預金口座への大きな貯蓄という結果になるだけでなく、鳥のクオリティ・オブ・ライフを向上させる永続的な行動になるのです。

バルーンペイメントにする：彼らにパワーを与える

コントロールは私達と暮らす動物との関係作りの重要な要素です。鳥にコントロールさせるということは、鳥に選択肢を持たせ、決断し、行動し、自身の行動の結果を経験する機会を与えるという意味があります。数え切れないくらいたくさんの方で鳥にコントロールさせます。例えば、ショーで鳥に自由に飛ばせるためにドアを開け、私達がキューを出したら、私達の手で飛んでくるなど。鳥はキューの通りに動くか今いる場所にいるかの機会が得ることになります。

手袋の上に着地すると、トレーナーは鷹からコントロールを取り去り、ジェス(足緒)を掴むか空中に飛ばせるかになります。こういった行動が、信頼預金口座からの大きな引き出しになる事に、多くのトレーナーは気づけていません。トレーナーの手から飛ばされた鷹が手袋に戻ってくる事を躊躇していると、鳥が太りすぎているからだとか鳥のせいにして責任逃れをするトレーナーがいます。安定しないクレートに入ったコンゴウインコは次にそのクレートに入る事を拒否します。こんな時にもトレーナーは鳥の体重のせいにするのです。悲しい事に、彼らが鳥の体重を落とすと、鳥は飢えから行動することを強制され、トレーナーは不必要に鳥の体重を下げる事を強化されるのです。すべてあまりにもよくあることですが、これは体重の問題ではありません。信頼構築戦略によるトレーニングがより良い方法なのです。

鳥にコントロールさせる事で、私達は信頼預金口座に実質的な貯蓄をし、ショーではしっかりと体重のある鳥達とショーをすることができるのです。NEI では、ジェスを持たないことで、どれだけ信頼を獲得できるかを理解しているので、私達のショーでは誰もジェスを掴みません。ステートフェアショーの

スターパフォーマーであるレヴィは以前庭に連れてくる時や、リリースする場所までのクレートに入る時に繰り返し翼をばたばたさせ逃げようとしていました。ステージではトレーナーの手袋に乗りたがらなくなり、一瞬乗るけれど食べ物だけ取ってすぐに飛び立ったりしていました。ですから、彼の管理スタイルを変えることにし、手袋の上で彼をとどめることをやめたのです。

私達はこれと同じ事をサイチョウとギンガオサイチョウ、そしてすべてのコンゴウインコにしています。手の上で体重を量りましたが、それが唯一彼らをハンドリングする時でした。ケージからステージの上のステーションに直接飛んできて、その後ケージに戻ったのです。彼らの行動は安定しており、体重は適正ちょうどまたは上回るくらい、そして私達の信頼預金口座は溢れんばかりになりました。

私達はすべての機会において、鳥に環境をコントロールさせています。私達が手を出して鳥が乗ったら、その行動は強化されます。私達は決して鳥に手に乗る事を強要し、預金口座からの引き出しになるような事はしません。ケージやクレートに入る事を鳥に教える時、中にいたいかそうでないかは鳥に決めさせます。ケージの中にいる事に私達を作る強化の歴史と、出たければいつでも出られるという事が混ざり合っています。鳥はすぐにケージの中にいるとより多くの強化子を得られるという事を学習し、クレートに入っている行動が強くなるのです。

人々はよく獣医師の診察時にかれらがそこにいるべきか、またはストレスを彼らのせいに行ないたいために部屋を出るべきかを尋ねます。私達のその質問への答えは通常「状況によります…。あなたの信頼預金口座はどんな様子ですか？」深い信頼関係があれば、人が部屋にいることへの利点がたくさんあります。また、鳥を保定することで、鳥が落ち着く手助けになることもあるのです。深い信頼預金口座を持つほとんどの鳥は、診察が終わると、今まで鳥を保定していた人なのにも関わらず、信頼する人のところへ向かいます。

しかし、もし鳥と不確かな関係だと、診察が信頼預金口座を破産に関連付けられるかもしれません。

鳥のためだけでない

カレン・プライヤ(2002)は、こう言って核心をつきました

「最近多くの教育を受けた人々が、強化の理論を、ずっと知っていたことですべてわかっているのに、さほど重要でないことのように扱います。実際、ほとんどの人々は理解していません、そうでなければ、かれらの周りの人にそんなにひどく接することはないでしょう」

動物トレーナーは彼らの動物と信頼預金口座構築のため前例のない方法で成功しており、結果は効果的で人道的なトレーニングになっています。私達はゴリラからアフリカのワイルドドッグまでさまざまな異なる種の動物との協力的な歯磨き行動を教える動画を持っています。これら動画の根底にあるのは高比率の正の強化のからうまれた多額の信頼預金なのです。しかし、インターネットで歯磨きの仕方を子供に教える親の動画を探すと、アドバイスの最後の言葉に驚きます。「…かれらを椅子に座らせ縛りつけておくと上手くいくでしょう。」

同僚達との信頼預金口座を作るには、お互いの良い点を捉えることが、慎重な批判よりもずっと多くなるという形を取ります。シンプルなありがとう、または微笑みや協力的なうなずきが預金口座に信頼を

貯めるのです。軽蔑するような発言、呆れ顔をする、ネガティブなひねりをいれた小さなジョークでさえ、深刻な引き出しになってしまうのです。あまりにすぐに多くを求めるより、望む行動への小さなステップでのシェイピング、明確で誠実なコミュニケーションが、私達がもっとも必要とする信頼構築の行動です。しっかりとした信頼預金口座に基づいた良い関係により、もっとも良い関係にでさえおこるであろう時折の引き出しを乗り切ることができるのです。

動物トレーナーが人間同士の関係向上の時に先頭に立つという事に驚く人もいるかもしれませんが、私達は驚きません。現代的なトレーナーが正の強化について知っている事をお互いに応用し、その結果が人と彼らのケアのもとにある動物達との関係に大きな配当金をもたらす信頼預金口座なのです。

参照

- Motivating operation.(1999). In *USF Behavior Analysis Glossary* online. Retrieved From www.coedu.usf.edu/abaglossary/glossarymain.asp?AID=5&ID=1800
- Pryor, K. (2002). *Don't shoot the dog! The new art of teaching and training*. Surrey, UK: Ringpress Books Ltd.

関連する読み物

- Friedman, S.G. (2012). Back in the Black. Rebuild a Bankrupt Relationship. *Bird Talk Magazine*, Sept., 14-17.
- Martin, Steve. (2007). Does Your Bird Have a Trust Account. *World Parrot Trust PsittaScene Magazine*. Vol. 19.1 (No. 70), p 6-8.